

Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION
船の科学館・海と船の博物館ネットワーク



苫小牧港開港50周年記念企画展

夢を形に

～砂浜と原野にいどんだ時代～

2013.10/12(土)-11/24(日)

苫小牧市美術博物館

愛称《あみゅー》

入館料／一般 300円(240円)
大・高校生 200円(140円)
小中学生 無料

* ()内は10名様以上の団体料金
* 観覧料の免除規定がありますのでご相談ください。
* 年間観覧券(一般:900円、大・高校生:600円)でご覧になれます。

開館時間／午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日／月曜日

* ただし10/14(体育の日)、11/4(振替休日)は開館し翌日の火曜日休館

アクセス／道南バス「文化公園前」下車徒歩5分、JR苫小牧駅南口から車で5分

◀ 苫小牧港開港第一船として入港した第三北星丸と光輝丸／写真集「砂浜と原野にいどんで」より《昭和38(1963)年4月25日》



空撮用カメラ「リンホフ テヒニカ」
志方写真芸社蔵

主催／苫小牧市、苫小牧市教育委員会
後援／北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所、苫小牧港管理組合、苫小牧港開港50周年記念事業実行委員会
協力／苫小牧港開発株式会社、苫小牧埠頭株式会社、苫小牧信用金庫、株式会社志方写真芸社、一般社団法人日本埋立浚渫協会
お問合せ先／苫小牧市美術博物館 〒053-0011 苫小牧市末広町3-9-7 Tel.0144-35-2550 Fax.0144-34-0408 <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/>

苫小牧港開港 50 周年記念企画展

夢を形に

～砂浜と原野にいどんだ時代～

半世紀前、日本最初の内陸掘込式港湾である苫小牧港は先人の非凡な発想と努力によって開港しました。一帯が砂浜である苫小牧の海岸には港をつくることはできないという先入観念とともに採算性なども問題視され、大正時代の構想から 40 年もの間足踏みが続きました。そうした状況下にあっても自治体や企業、住民の熱望は絶えることはなく、1951(昭和 26) 年起工式が行われ砂浜を掘り込む港造りが始まりました。1963(昭和 38) 年、国内初の掘込式港湾として供用が開始され、その技術は鹿島新港、新潟東港、福井港などに受け継がれていきました。

本展示会では江戸時代より北海道から本州へ物資を運ぶ役割を担っていた歴史を導入とし、内陸を掘り込んでいく過程をドキュメントとして撮影した写真集「砂浜と原野にいどんで」掲載の貴重な写真や地図、浚渫船模型などから苫小牧港が形成されるまでを紹介し、併せて現在の港の役割を知る資料や港をテーマとした絵画作品を展示し、市民と歩んだ港の歴史を振り返ります。

関連行事

■ 港の歴史フィルム上映会～人造港 苫小牧～

日時 平成 25 年 10 月 12 日(土) 14 時～15 時

平成 25 年 11 月 23 日(土) 14 時～15 時

場所 苫小牧市美術博物館

※当日直接会場へお越しください。

■ 歴史見学会 苫小牧港の今と昔

日時 平成 25 年 10 月 26 日(土) 13 時～17 時

場所 苫小牧西港フェリーターミナル 美術博物館

定員 40 名

※10 月 5 日(土) から電話で受け付けます。

協力 苫小牧港開発株式会社

■ 展示解説会

日時 平成 25 年 10 月 20 日(日)・11 月 17 日(日)

① 10 時～11 時 ② 14 時～15 時

場所 苫小牧市美術博物館

※観覧料が必要です。予約は不要です。



「北前船で使用された半纏」
苫小牧市美術博物館蔵



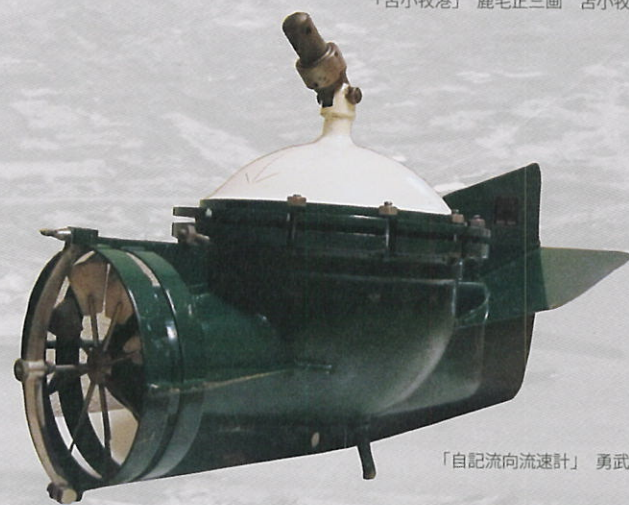
「船絵馬 豊通丸」 門別稻荷神社蔵



「苫小牧市鳥瞰図 昭和 25 年(上)・昭和 28 年(下)」 吉田初三郎画 苫小牧市美術博物館蔵



「苫小牧港」 鹿毛正三画 苫小牧港開発株式会社蔵



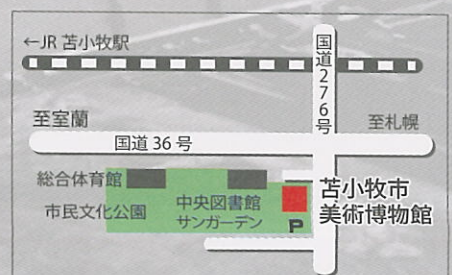
「自記流向流速計」 勇武津資料館蔵

苫小牧市美術博物館
愛称「あみゆー」

〒053-0011 苫小牧市末広町 3-9-7

Tel: 0144-35-2550 Fax: 0144-34-0408

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutukan/>



<アクセス>

道南バス「文化公園前」下車徒歩 5 分

JR 苫小牧南口から車で 5 分